

教科	科目	学年・課程	単位数
国語	国語表現	3年・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 国語で適切に表現する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を養います。 2 進路目標に応じた表現力を身に付けることも目標とします。			
学習の内容			
1 表現の基礎 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の基盤となる事柄を理解するとともに、表現全般に通じる基礎的な方法を習得します。教材は「文章を書く意味」「文章の書き方」「わかりやすい表現」「表現の工夫」「描写の工夫」を学習する予定です。 2 表現の実践 「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」「論述」の四部に分け、ジャンル・形式別の表現方法を身に付けます。教材は「手紙を書く」「紹介文・宣伝文を書く」「記録文を書く」「考えを発表する」「課題作文を書く」を扱う予定です。 3 表現の探究 「日本語の理解」「表現の研究」の二分野について学習します。教材は「日本語の特徴」「敬語の分類」「ニュアンスを変える助詞」を扱う予定です。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。 2 話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 3 書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 4 読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。 5 知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の5つの評価の観点から総合的に評価します。 2 考査、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取組など、全ての学習活動を評価の対象とします。			
その他			
「読む」「書く」「話す」「聞く」能力は、我々の生活や自己実現にとって欠かせない、基本的な能力であり、その根本は、すでに家庭生活や義務教育の中で育まれているでしょう。 我々の生きる社会は日々多様化し複雑さを増しています。特に、21世紀を担う生徒諸君は、世界中の（宗教や歴史政治信条の異なる）人々と対話していかなければなりません。立場や意見を異にする人々ともスムーズに意思疎通でき、さらに、深く豊かな情操を感得し、普遍的な人間性に思いを致すことが、混迷する現代を生き抜く力を支えるものと信じます。 それには、まず、基礎的語彙が身に付くまで、何度も何度も繰り返し読み書くことです。そして、文章を声に出して読んでみてください。また、学習は目と頭だけではありません。五感をフルに活用して、楽しく取り組みましょう。国語力は読書量に比例するとも言われています。本校では、『朝の読書』に取り組んでいます。これをよい機会として、本に親しんでください。 授業で分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
国語	現代文B	3年 普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 近代以降の文章について、読解・鑑賞の方法を習得し、ものの見方・考え方を深めること、また、自分の考えをまとめて適切に表現する能力（「書く」・「話す」）を身に付けることが目標です。 2 2年次の現代文で培った「読む」力・「書く」力を、自分に必要な具体的な“生きる力”に高めていきます。			
学習の内容			
評論・小説・随想・韻文の4つのジャンルについて、近・現代を代表する筆者（作者）の作品を読み、現代文へのアプローチの仕方や読み解き方を学びます。理解や表現に必要な、基礎的な語彙力を充実させることに力点をおいて学習します。 現代社会や人間の普遍的な問題について、自分の日常や将来の生き方に結びつけて考える取組を実践していきます。基礎的語彙を適切に組み合わせて使えるか、などの実践力・応用力の養成に力点をおきます。 学習予定作品は、随想「食と想像力」 小説「話を聞かせて」 評論「記憶のゆがみ」「物語を発現する力」 詩「食事」 評論「鏡としての他者」「僕らの時代のメディア・リテラシー」 小説「卒業」 短歌と俳句「折々のうた」 評論「経験の教えについて」 小説「山月記」です。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。 2 話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 3 書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 4 読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。 5 知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の5つの評価の観点から総合的に評価します。 2 考査、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取組など、全ての学習活動を評価の対象とします。			
その他			
「読む」「書く」「話す」「聞く」能力は、我々の生活や自己実現にとって欠かせない、基本的な能力であり、その根本は、すでに家庭生活や義務教育の中で育まれているでしょう。 我々の生きる社会は日々多様化し複雑さを増しています。特に、21世紀を担う生徒諸君は、世界中の（宗教や歴史政治信条の異なる）人々と対話していかなければなりません。立場や意見を異にする人々ともスムーズに意思疎通でき、さらに、深く豊かな情操を感得し、普遍的な人間性に思いを致すことが、混迷する現代を生き抜く力を支えるものと信じます。 それには、まず、基礎的語彙が身に付くまで、何度も何度も繰り返し読み書くことです。そして、文章を声に出して読んでみてください。また、学習は目と頭だけでするものではありません。五感をフルに活用して、楽しく取り組みましょう。国語力は読書量に比例するとも言われています。本校では、『朝の読書』に取り組んでいます。これをよい機会として、本に親しんでください。 授業で分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。			

教科	科 目	学年・課程	単位数
地理歴史	日本史A	3年普通科I類型、3年ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 近代の日本史を科学的に理解することを目指します。 2 近代以降の日本の歴史の認識に対する多様な見方・考え方を学び、未来の日本について主体的に考える態度を養うことを目指します。			
学習の内容			
【第1編】 近代の日本と世界 江戸末期からの幕藩体制の動揺と欧米列強のアジア進出について学習します。さらに、明治維新の政治改革と、近代産業の発達とその変化について学習します。 【第2編】 大戦期の世界と日本 大正・昭和初期における日本の政治や社会の変動について学習します。さらに、国際関係における日本の立場と第二次世界大戦までの歴史を学習します。 【第3編】 現代の世界と日本 第二次世界大戦後の日本の政治や社会の動向を国際政治の動きと関連させながら学習します。さらに、現代の日本社会が直面する課題についても考察していきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 歴史的な事物・事項に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組んでいるか、また、積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。 2 思考・判断・表現 近現代史を中心に、地理的な条件や世界の歴史との関連も踏まえて、現代のさまざまな問題を歴史的な観点から考えることができるか、その考えをもとに自分なりに日本史に対する内容の研究・分析を行い、表現できるかを評価します。 3 資料活用の技能 地図や写真・絵画資料などを活用できる技能を習得できたかを評価します。 4 知識・理解 歴史の流れを正確にとらえ、歴史的な事物・事項に対する基本的な内容を理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 関心・意欲・態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 資料活用の技能 … 授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 4 知識・理解 … 定期考査の結果をもとに評価します。			

教科	科 目	学年・課程	単位数
公民	政治・経済	3年普通科Ⅰ・Ⅱ類型・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 現代社会の学習を基礎として、さらに民主主義の本質についての理解力を身に付けることを目指します。 2 政治・経済に関する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養うことを目指します。			
学習の内容			
【第1編】 現代の政治 第1章で民主政治の基本原則と日本国憲法を、第2章で現代の国際政治と日本の現状を学習します。また、私たちの一生は、どのようなしくみの中で政治と関わっているのかを考えていきます。			
【第2編】 現代の経済 第1章で現代経済のしくみと特質を、第2章で国民経済と国際経済を学習します。また、雇用や賃金のしくみが増加していく中で、豊かな人生を送る術を考えていきます。			
【第3編】 現代社会の諸課題 第1章で現代日本の政治や経済の諸課題を、第2章で国際社会の政治や経済の諸課題を学習します。現代の社会で解決しなければならない課題（少子高齢化問題・食糧問題・公害問題など）を、政治と経済を結び付けて考えていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 政治・経済に関する出来事に興味・関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組んでいるか、また積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。			
2 思考・判断・表現 日本という国が現在どのような立場に置かれているのかという現状を把握するとともに、身近な地域社会で自分は何ができるのかということが考察できているか、さらにその考察に対する内容の研究・分析を行い、それらを理解し表現できるかを評価します。			
3 資料活用の技能 統計資料を読み解く力を身に付けているかを評価します。			
4 知識・理解 政治・経済に関する基本的な内容を理解するとともに、さらに実生活に役立つ知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 関心・意欲・態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 資料活用の技能 … 授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 4 知識・理解 … 定期考査の結果をもとに評価します。			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
数 学	数学研究 B	3 年 普通科 I 類型・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1	方程式と不等式 数の拡張の意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1 次方程式・1 次不等式及び 2 次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにします。		
2	2 次関数 関数の意味について理解を深めるとともに、関数の最大値・最小値を求めることや 2 次不等式の解を求めることができるようにします。		
3	図形と計量 正弦、余弦及び正接の意味や正弦定理・余弦定理を理解し、平面図形や空間図形の計量などに活用できるようにします。		
4	場合の数と確率 順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数学的にとらえ、事象を数学的に考察し処理できるようにします。		
5	平面図形 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにします。		
学習の内容			
1	方程式と不等式 式の計算、実数、方程式と不等式について学習します。		
2	2 次関数 2 次関数とグラフ、2 次関数の値の変化、2 次不等式について学習します。		
3	図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量について学習します。		
4	場合の数と確率 集合と要素の個数、場合の数、確率について学習します。		
5	平面図形 三角形の性質、円の性質について学習します。		
評価の観点			
1	関心・意欲・態度 方程式と不等式、2 次関数及び図形と計量、場合の数と確率、平面図形における考え方に関心をもっているか、また、意欲的に課題に取り組むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを身近な事象の考察に活用しようとする態度を身に付けているかを評価します。		
2	数学的な見方や考え方 方程式と不等式、2 次関数及び図形と計量、場合の数と確率、平面図形における数学的な見方や考え方をいいたそうとしているか、また、見いだした数学的な見方や考え方をもとに事象をとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えているかを評価します。		
3	数学的な技能 方程式と不等式、2 次関数及び図形の計量、場合の数と確率、平面図形において、事象を数学的に考察して適切な計算方法やグラフを用いて処理できているか、事象を表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できているかを評価します。		
4	知識・理解 方程式と不等式、2 次関数及び図形と計量、場合の数と確率、平面図形における基本的な概念、原理、法則、用語記号などを理解し、基本的な知識を身に付けているかを評価します。		
評価の方法			
1	上記の 4 つの評価の観点から総合的に評価します。		
2	考査・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とします。		

教科	科目	学 年・課 程	単位数
理 科	化学基礎	2年普通科Ⅱ類型 3年普通科Ⅰ・Ⅱ類型、ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養うことを目指します。 2 進路目標に応じた理数系の能力を身に付けることを目指します。			
学習の内容			
1 物質の成り立ち 物質の探究、物質の構成粒子、物質と化学結合について学び、基本的な原子、分子、イオンの概念を整理して内容を深化させます。化学と人間生活に関連して、文明の中で変遷してきた金属やプラスチックの概要を学びます。 2 物質の変化 基本となるモルの概念、酸と塩基、酸化・還元の項目について学習し、発展的な河川水の汚染状況の調査や備長炭電池などエネルギーや電気分解について探究します。化学と人間生活に関連して、食品添加物、洗剤、農薬、セラミックスなど具体的な物質を学習し、理解を深めていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 化学的な事物・現象に関心を持ち、意欲的に探究して化学的なものの見方を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 化学的な事物・現象の中に問題を見だし、観察・実験などを行うとともに、実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、事実に基づいて導き出した考えを表現できるかを評価します。 3 観察・実験の技能 化学的な事物・現象に関する観察実験の技能を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できるかを評価します。 4 知識・理解 観察・実験などを通して、化学的な事物・現象についての基本的な概念や原理や法則を理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 評価の内訳は、「関心・意欲・態度」20%、「思考・判断・表現」30%、「観察・実験の技能」20%、「知識・理解」30%です。 2 定期考査、授業中の学習の様子、観察実験の技能、課題の提出状況などをもとに評価を行います。			
その他			
○化学の実験では、薬品を使用しますので、先生の指示に従って安全に実験してください。 ○夏休み等の長期休業前にサイエンス関連の催しものを紹介するので、希望者は積極的に参加して学習を行ってください。 ○授業でわからないことがあったら、理科の先生へすぐ質問しましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
保健体育	体育	3年普通科Ⅲ類型・ライフデザイン科	2
学習の目標			
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
学習の内容			
体づくり運動では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を行います。特に体力を高める運動を行い、体力の増進を目指します。体づくりでは運動実施後の達成感や充実感が得られるよう、内容を精選しコミュニケーションや人とのふれあい、言語活動能力を養っていきます。 球技では、年間の気候を考慮した授業を計画します。ネット型(バレーボール・バドミントン・テニス・卓球) ベースボール型(ソフトボール) ゴール型(サッカー・バスケットボール)から選択し、ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり、工夫をしたりすることの楽しさを味わいます。 陸上競技では、学校外のコースを自分の能力に応じたペースで走ったり、記録に挑戦したりして、自己の課題を克服する気持ちを育てます。 体育理論ではスポーツのルールはもちろんのこと運動の大切さやメカニズムについて理解させ、生涯を通じて運動を実践できる能力や態度を養っていきます。 ダンスではフォークダンスをみんなで踊ったり、創作したりすることにより、リズムに乗って体を動かすことの楽しさを味わうとともに、自他の良さを認め合うことの大切さを育てます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで計画的に運動しようをしているか評価します。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いているか評価します。 健康や安全に留意して運動しようとしているか評価します。 2 思考・判断 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけだしているか評価します。 課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか評価します。 3 運動の技能 己の能力と運動の特性に応じた課題を目指して運動を行い技能を高めているか評価します。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけているか評価します。 4 知識・理解 社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し身につけているか評価します。			
評価の方法			
1 各運動種目とも、スキルテスト・グループノート等を利用して評価します。 特に集団競技においてはグループでのミーティング・グループ練習での活動を大切に、ゲーム終了後にチームの問題点をフィードバックして修正する時間を与え、活動の様子も評価します。 2 各運動種目とも、「関心・意欲・態度 20%」「思考・判断 20%」「運動の技能 40%」「知識・理解 20%」で評価します。			

教科	科目	学年・課程	単位数
芸術	音楽探究	3年 ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深めます。 2 保育検定3級合格を目標に、ピアノ奏法、ソルフェージュの基礎を身に付けます。			
学習の内容			
1 楽譜の構成要素を理解し、ソルフェージュ能力を高めます。 2 ピアノの基本的奏法に興味や関心をもち、個人練習により演奏技術を身に付けます。 3 簡単な伴奏により、弾き歌いができる能力を身に付けます。 4 楽曲の特徴をとらえ、より豊かに表現する方法を体得します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 音楽を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているかを評価します。 2 表現の創意工夫 感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫しているかを評価します。 3 表現の技能 創造的な芸術表現をするために必要な技能を身に付けているかを評価します。 4 鑑賞の能力 音楽を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わっているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評点は、授業内で行う実技試験、筆記試験と各活動に取り組む姿勢を考慮して評価します。 2 関心・意欲・態度20% 表現の創意工夫20% 表現の技能40% 鑑賞の能力20%を基準に評価します。			
その他			
資料等を整理するA4サイズのファイルを準備して下さい。 教科書以外に、ピアノの教則本を使用します。（授業で指示します。） 家庭でのピアノの練習が必要になります。（キーボードでも構いません。）			

教科	科目	学年・課程	単位数
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	3年ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 英文を読んだり聞いたりして、情報や考えを理解し、概要や要点をとらえることができるようになることを目指します。 2 聞き手に伝わるよう音読ができるようになることを目指します。 3 学んだことに基づき、英語で書いたり話し合ったりして意見の交換ができるようになることを目指します。			
学習の内容			
Lesson 7 Fuji, a Dolphin With a New Fin Lesson 8 Do We Need That ? Activity 2 Express Your Our Opinion Lesson 9 Changing Feelings 文法のまとめ3 Lesson 10 Ban Shigeru, Architect of Paper Lesson 11 Win for Our Nation Lesson 12 From Small Factories to the World Challenge 2 Let's Make English Haiku! 文法のまとめ4 Reading 2 Acting for the Future			
評価の観点			
1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを評価します。 2 外国語表現の能力 学習したことや与えられた話題について、英語で話したり書いたりして表現できているかを評価します。 3 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解しているかを評価します。 4 言語や文化についての知識・理解 言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評価は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解を総合的に評価します。 2 授業での小テストや課題への取組、提出物、授業態度なども評価の対象とします。 3 長期休業中の課題および実力テストの結果も評価の対象とします。			

教科	科目	学年・課程	単位数
商業	ビジネス基礎	3年ライフデザイン科	2
学習の目標			
ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けるとともに、つねに大きく変化するビジネス社会に適切に対応する能力と態度を育てることを目指します。			
学習の内容			
(1 学期) 1 章 商業の学習ガイダンス 6 章 売買に関する計算 2 章 経済と流通の基礎 (2 学期) 3 章 ビジネスの担い手 4 章 企業活動の基礎 5 章 ビジネスと売買取引 (3 学期) 7 章 ビジネスとコミュニケーション			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 学習や課外学習に積極的に参加し、発表やレポートの提出内容や回数から評価します。 2 思考・判断・表現 課題を思考判断し、解決しているかどうかを評価します。 3 技能 基礎・基本的技能から応用的な技能まで発展させているかどうか、レポートの内容や質問の解答内容から評価します。 4 知識・理解 商業の学習目的やビジネスに関する基礎的・基本的な知識を各考查から評価します。			
評価の方法			
1 上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。 2 評価の対象となる主な項目は次のとおりです。 観点評価1…授業への取組、ノート・プリント・レポートの提出 観点評価2…定期考査、小テスト 観点評価3…定期考査、レポート 観点評価4…定期考査、小テスト			
その他			
受験できる資格の例は、次のとおりです。 全商主催珠算・電卓実務検定2・3級 全商主催商業経済検定3級			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
商業	情報処理	3年 ライフデザイン科	2
学習の目標			
情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について理解するとともに、情報を適切に収集、処理し活用する能力と態度を身に付けることを目標にします。			
学習の内容			
(1学期)	1章 情報の活用と情報モラル 2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理 3章 ビジネス情報の処理と分析		
(2学期)	4章 データベースの活用 5章 情報通信ネットワーク		
(3学期)	6章 情報化社会のセキュリティとモラル		
評価の観点			
1 関心・意欲・態度	情報の収集・処理・分析・表現に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けているかを評価します。		
2 思考・判断・表現	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているかを評価します。		
3 技能	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用しているかを評価します。		
4 知識・理解	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解しているかを評価します。		
評価の方法			
1	上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。		
2	評価の対象となる主な項目は次のとおりです。 観点評価1…授業への取組、ノート・プリント・ワークブックの提出 観点評価2…定期考査、小テスト 観点評価3…定期考査、実技練習 観点評価4…定期考査、小テスト		
その他			
取得できる資格は次のとおりです。 全商主催情報処理検定試験3級 全商主催ビジネス文書検定試験1～3級			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	課題研究	3年・ライフデザイン科	2
学習の目標			
専門教科「家庭」に関する各科目の中から自分で課題を見つけ、各科目で学習した知識・技術を総合して、その課題の解決を図る学習をします。			
学習の内容			
自分自身の興味・関心や進路希望等に応じて (1)調査、研究、実験 (2)作品製作 (3)産業現場等における実習 (4)職業資格の取得 (5)学校家庭クラブ活動 の中から個人またはグループで適切な課題を設定します。次に、その課題の解決を図る方策を検討し、学習計画を立て実践します。最後に、その成果について発表します。 以下は課題例です。 3年次・・・ひとえ長着の製作 (職業資格の取得) 料理コンテストに挑戦 (調査・研究・実験) 障害者とのコミュニケーション (調査・研究・実践)			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 家庭の各分野から主体的に課題を見つけ、その解決に意欲をもって自発的・創造的に取り組んでいるかを評価します。 2 思考・判断・表現 家庭の各分野から主体的に見つけた課題の解決を目指し、思考を深め、学習したことを活かして創意工夫する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 家庭の各分野から主体的に見つけた課題の解決のために、知識と技術の深化、総合化を図ることができるかを評価します。 4 知識・理解 家庭の各分野から主体的に見つけた課題解決のための、専門的な知識と技術が定着しているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「知識・理解」などを提出物や作品点（レポート点）で評価します。「技能」は研究態度や実習態度で評価します。 2 考査は行いません。			
その他			
課題研究は、特定の科目にとらわれず広く自由な発想で自らが課題を見つけることが大切です。そのためには、日頃から問題意識をもって各科目の授業を受けることが大切です。			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
家 庭	子ども文化	3年・ライフデザイン科 ヒューマンサービスコース	2
学習の目標			
1 児童文化の意義、子どもの心身の発達に及ぼす遊びの重要性、様々な子どもの表現活動の意義と児童文化財の重要性、児童文化施設などについて学びます。 2 子どもの表現活動に必要な児童文化財の製作等の活動を通して、児童文化の充実を図る能力と実践的な態度を育てることを目標にしています。			
学習の内容			
1 子どもの遊びの意義と重要性また遊びの種類と発達とのかかわりについて理解します。 2 児童文化実習として、絵画や折り紙を用いた壁面構成を考え、実際に幼稚園を訪問し、地域の子どものとの交流を体験します。 3 保育技術検定3級を受験します。保育技術検定は「音楽・リズム表現技術」「造形表現技術」「言語表現技術」「家庭看護技術」の4項目から成ります。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化などに関心を持ち、児童文化の充実を目指して意欲的に取り組んでいるか、実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 子どもの遊びや児童文化財に関する諸問題について思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 子どもの遊び、子どもの表現活動、児童文化財などの基本的な技術を身に付け、その成果を具体的に表現できるか、また実習や作品製作の取組や技術について評価します。 4 知識・理解 実践的な学習を通して、子どもの遊び、表現活動や児童文化財についての知識を身に付け、遊びの重要性や表現活動、児童文化の意義などを理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は「知識・理解」「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」を総合的に考慮して評価します。 2 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」の評価は、授業態度、提出物、作品や実習の意欲や態度の点も含みます。 3 「技能」の評価は作品や実習技術を評価します。			
その他			
幼稚園での校外実習も計画しています。高校生らしく意欲的に取り組みましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	ファッション造形基礎	3年・ライフデザイン科 ライフデザインコース	3
学習の目標			
1 被服製作に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得します。 2 デザインや着用目的に適した被服材料を選択して、洋服や和服についての製作に関する理論と技術を学習し、計画に従って能率的に製作できる能力と実践的な態度を身に付けていきます。			
学習の内容			
被服構成の基礎、被服の構成技法、被服材料の種類と特徴、洋服の製作、和服の製作について実習を中心に学習します。 知識と技術の定着を図るために以下のような被服技術検定を実施します。 全国高等学校家庭科技術検定被服製作 和服1級・・・ひとえ長着			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴に興味を持ち、被服を創造的に製作する意欲と実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴について思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創造する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴及び被服製作に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、さらに計画的・能率的かつ創造的に被服製作ができる専門的な技術を身に付けているかを評価します。 4 知識・理解 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴及び被服製作について理解し、専門的な知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は、「知識・理解」「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」を総合的に考慮して評価します。 2 「技能」は作品の評価・実習技術、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は授業態度、提出物、作品や実習の意欲や態度を評価します。			
その他			
被服製作には手先の器用さ、丁寧さ、根気強さが必要です。そして基本的な縫い方を繰り返して練習することが大切です。また、進度が遅れがちな人は放課後残ってする必要があります。遅れれば遅れるほど作品のできも悪く、意欲も低下します。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	ファッション造形	3年・ライフデザイン科 選択	3
学習の目標			
1 「ファッション造形基礎」の内容を発展させ、高度な被服の構成を理解し、デザインや着用目的に応じたファッション造形の知識や技術を学びます。 2 ファッション製品を創造的に製作する能力と実践的な態度を身に付けていきます。			
学習の内容			
高度な被服構成の技法、創造的デザイン、被服材料の種類と特徴、ファッション製品の製作やアパレル産業について実習を中心に学習します。 知識と技術の定着を図るために以下のような被服技術検定を実施します。 全国高等学校家庭科技術検定被服製作 洋服1級・・・総裏付きジャケット			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴に興味を持ち、被服を創造的に製作する意欲と実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴について思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創造する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴及び被服製作に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、さらに計画的・能率的かつ創造的に被服製作ができる専門的な技術を身に付けているかを評価します。 4 知識・理解 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴及び被服製作について理解し、専門的な知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は、「知識・理解」「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」を総合的に考慮して評価します。 2 「技能」は作品の評価・実習技術、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は授業態度、提出物、作品や実習の意欲や態度を評価します。			
その他			
ファッション造形は、高度な技術を必要とする作品を作ります。作品構成をイメージするとともに、縫製に関する事項を理解し、縫製技術を繰り返し練習することが大切です。進度が遅れがちな人は放課後残ってする必要もあります。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	フードデザイン	3年・ライフデザイン科 ライフデザインコース	3
学習の目標			
1 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付けることを目指します。 2 食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する態度を育てることを目指します。			
学習の内容			
この科目では、食事の意義と役割について学習するとともに、心身ともに健康で豊かな食生活を営むために栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付けていきます。フードデザイン実習を通して、学んだ知識や技術を自分自身の食生活に取り入れて食事を総合的にデザインする能力と態度を身に付けていきます。 また、調理技術や知識を身に付けるために、全国高等学校家庭科技術検定1級の取得を目指します。検定内容は以下の通りです。 1級・・ 供応食・行事食の献立作成と調理・筆記試験			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 食生活に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか、食事を総合的にデザインする実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 食事を総合的にデザインすることを目指して自ら思考を深めているか、学習した知識と技術を活用して、創意工夫する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する基礎的・基本的な技術を身に付けているか、食事を総合的に捉えて計画・実践できるかを評価します。 4 知識・理解 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか、食事の意義と役割や豊かな食事について総合的に理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」を総合的に評価します。 2 授業に取り組む姿勢、実習意欲や態度、提出物（ノート、実習ノート、実習プリント）、準備物などについても評価します。 3 1学期は、技術検定1級についても評価します。			
その他			
調理実習については、家庭で予習、復習をし、実習に真剣に取り組み、調理技術や知識を身に付ける努力をしましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	調理	3年・ライフデザイン科 選択	3
学習の目標			
1 様式別調理、集団調理などに関する知識と技術を習得します。 2 食生活の充実を図るとともに、創造的に調理する能力と態度を育成します。			
学習の内容			
第1章 調理の基本 調理の目的や食品の性質、調理の種類と基本操作について学びます。また、調理を科学的にとらえ、調理による食品成分の変化や食味への影響などについても考えを深めることができるようにします。			
第2章 調理の種類と献立 日本料理、西洋料理、中国料理の調理の特徴と献立作成の基本を学習します。また、行事食・供応食、病人食、幼児・高齢者の食事と、それぞれの目的を理解し、食卓構成、盛り付け、栄養、嗜好など様々な配慮の必要性について理解を深めます。			
第3章 食事作法 日本料理、西洋料理、中国料理それぞれの食事作法とその意義や実態について理解を深め、それぞれの料理に適した作法を身に付け、その場に応じて表現できるようにします。			
第4章 集団給食 各種給食の目的やその特徴・社会的な意義を深く考え、責任感をもって適切な判断ができるよう学習します。また、実習を通して集団調理の献立作成と技術を習得できるようにします。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 調理の基礎について関心を持ち、食生活の充実・向上を図るために、意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けているかを評価します。			
2 思考・判断・表現 調理の理論について思考を深め、目的別・対象別の調理について献立や調理方法が判断できるかを評価します。			
3 技能 調理の理論と基礎的技術を踏まえて、能率的・合理的に調理できるとともに創意工夫やアイデアを生かして、創造的に調理できる技能を身に付けているかを評価します。			
4 知識・理解 調理の基礎や様式別調理・集団調理の知識を身に付け、集団調理や食文化の伝承・創造についてもその社会的な意義や在り方を理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」を総合的に評価します。			
2 授業に取り組む姿勢、実習意欲や態度、提出物（ノート、実習ノート、実習プリント）、準備物などについても評価します。			
その他			
「調理」では、1、2年生のフードデザインで学習したことと関連させながら、調理の基礎や理論を中心に学習していきます。調理実習前の手順、操作の確認、実習後の復習などを行い、調理技術を確実に身に付け、能率的に調理できるように心がけましょう。また実習時の服装など、衛生面にも留意するようにしましょう。			

教 科	科 目	学 年・課 程	単位数
福 祉	介護福祉基礎	3年・ライフデザイン科 ヒューマンサービスコース	2
学習の目標			
1 高齢者と障害者の多様な自立生活を支援していくために必要な基礎的知識と技術を習得し、介護を適切に行う能力と態度を身に付けることを目指します。			
学習の内容			
1 介護の意義と役割、高齢者の生活と心身の特徴、高齢者の生活障害と予防、障害者の生活と心理、自立生活支援と介護、地域生活を支えるシステムについて学びます。			
2 授業や老人保健施設での実習を通して、利用者のプライバシーや人権を尊重することの重要性や介護従事者としての責任と任務、専門性について学び、よりよい介護について考えます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 介護に関心を持ち、介護活動に意欲的に取り組むとともに適切な介護サービスを行う能力と態度を身に付けているかを評価します。			
2 思考・判断・表現 介護が社会から求められている大切な行為であることを認識し、介護を受ける人の気持ちを常に考察しているかを評価します。			
3 技能 高齢者や障害者に対する基礎的な介護技術を身に付けているか、また、介護活動を計画し、適切な援助活動ができているかを評価します。			
4 知識・理解 介護に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか、また、福祉従事者として介護の意義や役割を理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は、「知識・理解」「思考・判断・表現」「技能」「関心・意欲・態度」を総合的に考慮して評価します。			
2 「関心・意欲・態度」は、授業に取り組む態度、ノート、ワークシート、感想文、発表の仕方や内容、実習態度について評価します。			
その他			
1 介護職員初任者研修に係る授業です。社会人講師による専門的な講義も予定しています。			
2 高齢者施設で、介護実習（夏季休業中）を実施します。介護は、高齢者や障害のある方の命と生活に関わる行為です。毎時間の学習を大切にして、基礎的な知識や技術を身に付け、積極的に実習に臨みましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
福祉	こころとからだの理解	3年・ライフデザイン科 ヒューマンサービスコース	2
学習の目標			
1 自立生活支援に必要なこころとからだの基礎的な知識を学び、介護実践に活用できる技術を身に付けます。 2 生活支援技術との関連を図り、各器官の機能と基本的な生活行動との関係について理解するとともに、生活支援を行うときの根拠を身に付けます。 3 訪問介護員同行訪問実習を行い、利用者について理解するとともに基本的な生活支援技術を身に付けます。			
学習の内容			
1 こころとからだの基礎的理解 サービス利用者の尊厳の保持と自立支援を図る介護実践のため、人間の心理面と身体面を学習します。 2 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 「生活支援技術」に必要な基礎知識として、サービス利用者の日常生活のすべてに関連する行為や終末期・緊急時の心理面と身体面についての基礎的な知識を学習します。 日常生活での変化に気づき、必要に応じて医療職と連携する方法も学習します。 3 訪問介護員同行訪問実習 訪問介護員に同行し、利用者と利用者の生活について学習します。利用者とのコミュニケーション、生活支援技術、記録や報告など介護を行う上で基本となる技術を学習します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 介護実践に必要なこころとからだの変化に関心をもち、自立生活支援に意欲的に取り組もうとする実践的態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 サービス利用者の立場に立った「生活支援技術」や福祉の考え方を身に付けているかを評価します。また、事例研究を通して「生活支援技術」を把握し適切な介護実践例を考え、よりよい介護実践の在り方を考察しているかを評価します。 3 技能 「生活支援技術」に関する基礎的・基本的なコミュニケーションや技法を身に付け、実践できる能力を身に付けているかを評価します。また利用者に応じたレクリエーションを企画・進行することができるかを評価します。 4 知識・理解 こころとからだのしくみに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、「生活支援技術」の意義や援助方法の実際を理解しているかを評価します。援助内容を正確に記録し考察・評価することができるかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は、「知識・理解」「思考・判断・表現」「技能」「関心・意欲・態度」を総合的に考慮して評価します。 2 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」の評価は、授業を聴く態度、ワークシート、ノート、感想文、発表の仕方や内容、実習態度について評価します。			
その他			
1 介護職員初任者研修に係る授業です。 2 こころとからだの理解の学習に併せて対人援助の基本についても学習します。コミュニケーションのとり方など、訪問介護員同行訪問実習で積極的にふれあい、技術を身に付けましょう。			